

令和3年度第2回庄原市「学びの变革」推進協議会

令和3年11月16日（火） 庄原市立東小学校

「本市児童生徒の『主体的な学び』を促進する教育活動を推進するとともに、学校全体での組織的なカリキュラム・マネジメントの実現に取り組むことにより、児童生徒の資質・能力の向上を図ること」を目的に、研修会を行いました。

【研究授業】教科等:第6学年 算数科

「データの特ちょうを調べて判断しよう

～中学校進学に向けて自分の生活を見直そう～」

授業者:東小学校 教諭 花岡 幸世

【協議・講話】『『本質的な問い』による授業改善に向けて』

広島県教育委員会 義務教育指導課 指導主事 藤本 哲平



【グループ協議】

- 単元のゴールが明確であり、実生活と結び付き、児童が学ぶ必然性を感じるものであった。また、児童に疑問をもたせ、課題意識をもって学習に取り組むことができるような導入であった。
- グループごとのワークシートを作成される等、教具に工夫が見られた。また、Google フォームを活用してアンケートを集約する等、タブレットの活用が参考になった。
- 各グループがヒストグラムや度数分布表等の表現方法を選択した際に、その理由を問い、協議する中で、目的に応じてデータを使いこなすことをさらに意識させることができるのではないか。

【講話】

- 全国学力・学習状況調査では、引き続き、日常の事象を数学的に解釈したり説明したりすること等に課題が見られた。各校の分析結果を対象学年・教科だけでなく学校全体の指導計画や授業改善につなげていく必要がある。
- 「見方・考え方」を働かせながら深く考えている児童生徒の具体的な姿を指導者が想定しておくこと、それを授業の中で見取っていくことや、そのような姿を目指して質の高い問いを設定していくことが大切である。

【参加者の感想等】

- ◆授業者が単元構想シートを作成し、その良さを実感されていたことを本校の職員に伝え、有効に活用していきたい。また、深い学びをする児童の具体的な姿を考え、職員と共有し、実践の振り返りを行い、次へつなげていきたい。
- ◆指導者は目指す具体的な児童の姿を想定し、指導がぶれないようにすることが大切であると感じた。そのためにも、単元構想シート等を活用して、単元を構想・構成することができる力をつけていきたい。
- ◆単元構想シートの内容を深めていくこと、そして、授業後に見直すことも大切であると思った。